

事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分「一部、令和5年度分を含む」)

静岡県立浜松西高等学校中等部

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	15
3	学校施設の概要	16
4	在籍生徒調	17
5	入学志願者及び入学者数調	18
6	生徒の状況	19
7	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	20
8	預金調	21
9	郵券等受払調	21
10	歳入歳出外現金調	21
11	歳出予算執行状況調	22
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	26
13	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	26
14	委託料に関する調	27
15	備品・図書調	28
16	主要備品調	30
17	職員調	31
18	職員の年齢調	33
19	健康管理	34

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

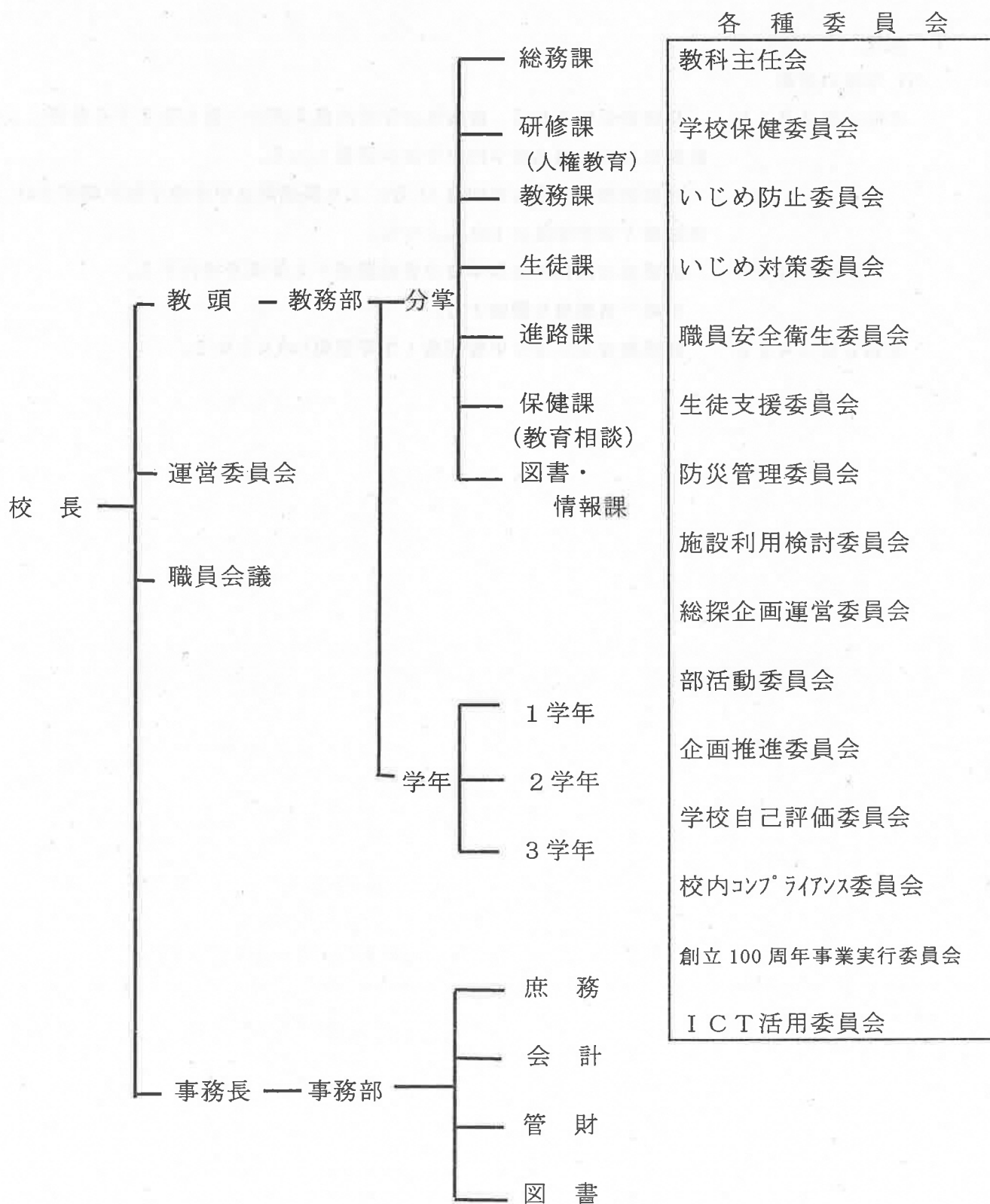
平成14年4月1日 静岡県条例第43号、静岡県立学校設置条例の一部を改正する条例により静岡県立浜松西高等学校中等部が設置される。

静岡県教育委員会規則第14号により静岡県立中学校学則が制定され、中等部第1学年定員が160人となる。

14年4月8日 静岡県立浜松西高等学校中等部開校・入学式を挙げる。
中高一貫教育を開始する。

令和5年4月1日 静岡県告示により中等部第1学年定員140人となる。

(2) 組織図
校務分掌表



2 目指す学校像

進取の精神に富む国際都市・浜松における中高一貫教育及び高校教育の拠点校として、すべての教育活動を通して、生徒に高い知性、豊かな心、たくましい力を育み、社会貢献への高い志を持つ人材及び国際社会のリーダーとして輝く人材の育成を目指す。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

【評価の基準】

A：十分目標を達成することができた

B：おおむね目標を達成することができた

C：あまり目標を達成することができなかった

D：ほとんど目標を達成することができなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	知的な好奇心・探究心を大切に、幅広い知識・思考力・表現力等、未来に生きる確かな学力を育成する。	○授業リサーチでの「チャイムと同時に授業が始まる」評価平均3.5以上 ○「授業の内容がよくわかる」90%以上	全校 94.3% 中1 94.3% 中2 94.8% 中3 96.2% 全校 96.6%、 中1 98.1% 中2 95.5% 中3 96.2%	A	○どの教員も試行錯誤し教材研究を重ねた。情報交換を密に行い、生徒の反応を見て授業改善を行った。 ○5%の生徒も学習内容を理解でき、主体的に学習する手立てを工夫する。
		○「興味や関心を喚起される授業が行われている」90%以上	全校 93.2% 1年 93.7% 2年 92.9% 3年 93.0%	A	○ICTの活用を積極的に進めた。生徒間交流、意見交換等も大いに取り入れた。 ○より魅力ある授業が展開できるよう研修、情報交換していく。
		○「予習→授業→復習の学習サイクルが確立できている」数・英各70%以上	<数学> 全校 61.7% 1年 66.7% 2年 60.6% 3年 57.6% <英語> 全校 67.6% 1年 72.3% 2年 69.0% 3年 61.4%	B	○学習サイクルは、1年の英語以外、70%に到達しなかった。 ○平日は、部活動などの両立のため、すきま時間を見つけて学習に取り組んでいる生徒もいる。 ○意識に差が見られる。授業では理解していても定着に課題がある生徒もいる。家庭学習での復習の大切さを繰り返し伝え、手立てを工夫していく。
		○年間10冊以上読む生徒の割合90%以上	全校 90.0% 1年 99.3% 2年 75.1% 3年 95.3%	A	○西山タイムや図書委員の働きかけと充実した活動ができ、よく読書をしている。
イ	地域社会・国際社会のリーダーとして必要なコミュニケーション能力・高い倫理観等の資質・能力を育成する。	○「自分の意見を相手にはっきり伝えることができる」80%以上	全校 85.8% 1年 88.7% 2年 82.6% 3年 86.1%	A	○友達の見解に耳を傾け、自分の考えを深めることができる生徒が多い。
		○「相手の意見をしっかりと受け止めることができる」80%以上	全校 97.2% 1年 95.6% 2年 99.4% 3年 96.8%		○小グループでは、積極的に意見を言えるが、人数が増えた中では消極性が見られる。人数が増えても意見を伝え

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		○「自分から進んで行動できる」 80%以上	全校 82.4% 1年 89.3% 2年 83.9% 3年 74.1%	A	ることができる生徒を増やしていく。
		○「学校生活に満足している」80%以上	全校 93.2% 1年 97.5% 2年 90.3% 3年 91.8%	A	○どの学年も 90%以上であった。 ○何に満足するのかは生徒それぞれである。「満足するにはどうしたらいいか？」を問い、生徒の実態も把握する。
	生命に対する畏敬の念や異なる人々を受け入れる優しさを育てるとともに、防災や安全に関する意識を高める	○「相手の立場や意見を尊重している」90%以上	全校 98.9% 1年 99.4% 2年 98.1% 3年 99.4%	A	○どの学年も 98%以上であった。
		○「自他の生命の大切さについて、主体的に考えている」80%以上	100% 思春期セミナー（2年で実施）を通して考えることができた。	A	○思春期セミナーを通して命の大切さを考える時間を持った。 ○道徳の時間に考える時間を持った。
		○思春期セミナー、薬学講座、ASEを各1回実施	実施できた。 ASEは2月中旬実施予定。	A	○学校薬剤師の協力のもと薬学講座を実施した。
		○月1回生徒指導報告会を実施する。	実施できた。	A	○生徒支援委員会を計画的に実施できた。また、臨時に集まり対応等を協議できた。
		○月1回保健だよりを発行	発行できた。	A	○保健だよりを月1回発行し、病気予防や健康増進のための情報提供を行った。
		○防災マニュアルポケット版の携帯率100%	全校 98.7%	B	○担当を通しての定期的点検で携行意識の向上につとめることができた。
		○防災に関する職員研修の実施	実施できた。	B	○災害用仮設トイレの設置方法を確認
		○交通マナーに関する苦情0件、交通事故0件	苦情3件（バス関係2、歩行関係1） 事故1件（自転車との接触）	B	○バスのマナー、歩道の歩き方で電話をいただいた。研修旅行でも気になる点があり、各学年で指導をした。引き続き相手の立場に立って考える指導を工夫していく。
エ	自分の幸福を追求するだけでなく、社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲をもつ生徒を育てる。	○「学校行事以外でボランティア活動をした」70%以上	全校 21.8% 1年 21.4% 2年 25.2% 3年 19.0%	C	○Google Classroomにアップして紹介をした。今後も継続していく。
		○「困っている人がいれば手助けをすることができる」90%以上	全校 94.9% 1年 95.6% 2年 94.8% 3年 94.3%	A	○コロナの感染状況が落ち着けば参加の呼びかけもできると考えられる。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		○「総学が問題解決能力を高め、進路探究に役立っている」 80%以上	全校 92.2% 1年 94.3% 2年 91.6% 3年 90.5%	A	○どの学年も「役立っている」が 90%以上であった。
		○「校則等の決まりを守って生活している」 90%以上	全校 98.9% 1年 98.8% 2年 98.1% 3年 100%	A	○落ち着いた学校生活を送っている。 ○長期休業後の新学期にリズムがつかめない生徒も見られた。
		○「規則正しい生活をしている」 90%以上	全校 88.3% 1年 91.2% 2年 85.2% 3年 88.6%	A	○長距離通学により、睡眠が不足している生徒もいる。生活ノートで生活時間を確認する。様子で気になる生徒へ声かけや家庭と連携をする。
オ	目標の実現に粘り強く取り組むたくましい心と体を育成するとともに、生徒の主体的な取組を通して自主・自律の精神を育み、生徒が主役の明るく規律ある学校づくりを進める。	○「目標を達成するまでねばり強く取り組むことができる」 80%以上	全校 83.5% 1年 85.5% 2年 79.4% 3年 85.4%	A	○落ち着いてじっくり学習に取り組んでいる。 ○全国学力状況調査「分からないことはそのままにしている」 3.8%であった。
		○「学習でわからないことは調べたり聞いたりして解決している」 80%以上	全校 94.1% 1年 95.0% 2年 92.9% 3年 93.0%	A	
		○「校内美化（清掃等）に前向きに取り組んでいる」 90%以上	全校 94.5% 1年 95.0% 2年 92.9% 3年 95.6%	A	○清掃用具の点検・整備をすることにより、清掃活動に取り組みやすい環境を作った。
カ	系統的・組織的な進路指導を通して、一人一人の夢と志を可能とする進路を実現する。	○講演会等年間 2 回以上の実施	2 回以上実施。	A	○計画通り、講演会等は実施でき、それぞれのテーマを深めることができた。
		○県学力診断調査で 8 割以上の得点が取れる生徒 80%以上	1年 48.4% 2年 25.2% 3年 43.9%	C	○家庭学習の意識向上を促し、学習内容の定着を図る必要がある。 ○新傾向対応等の分析を通して、各教科の本質、新学習指導要領への理解を深めることで教科のねらいを明確にし、授業改善をしていく。
		○「進路に関する情報や指導を十分受けている」 70%以上	全校 81.8% 1年 74.2% 2年 80.0% 3年 91.3%	A	○大学訪問、職場体験等、校外での体験活動を行うことができた。中高一貫校だからこそ得られる情報を classroom にアップし情報提供をした。
		○「3 年間または 6 年間を通した進路指導計画について知っている」 70%以上	全校 69.3% 1年 63.5% 2年 59.4% 3年 81.0%	B	○現在の学びと将来が点ではなく線となるよう、折を見て進路計画を目にする時間を設定し、現在地を確認する。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		○「自分の将来に対してははっきりした夢や希望を持っている」70%以上	全校 64.4% 1年 71.7% 2年 63.2% 3年 62.0%	B	○高校では学年が上がるにつれ明確な展望を持つことができているが、中等部では逆に下がることは中高一貫校の課題である。 校外での体験活動、外部講師の活用等を積極的に進め、視野を広げる機会を作る。
キ	生徒を鍛え、生徒の自己実現を支援することができる、高い指導力をもつプロの教師集団を目指す。また、組織を支える教職員一人一人のワークライフ・バランスの保持・向上に努める。	○公開授業と年2回以上の授業見学100%	2月末に100%実施	A	○研修主任等の声掛けにより教員同士の授業見学を実施することができた。
		○授業リサーチ実施	実施した。	A	○授業リサーチの結果から、生徒の実態に合わせて授業改善に努めた。
		○計画的・意図的な研修会の実施、外部の研修会に自主的に10人以上参加	研修会を実施 自主研修4人参加	B	○中等部のみでの研修会も実施した。 ○研修会の積極的紹介と参加を促す。また研修会情報を共有する。
		○ICTを活用した授業の実践および共有が促進される。	授業実践、共有が促進できた。	A	○ICTは各教科で積極的な活用が進んだ。
		○教科主任者会での情報共有や意見交換が行われる。	教科間で情報共有や意見交換を行った。	A	○教科主任者会にかかわらず、随時、各教科で情報共有や意見交換がされている。
		○「学校に信頼することができる教師がいる」80%以上	全校 89.4% 1年 94.3% 2年 85.2% 3年 88.6%	A	○前年度に引き続き80%を上回った。
		○管理職からの声掛け100%	高校と協力して定時退庁日のアナウンスを実施。	B	○全体への声掛けは積極的に行った。 ○個々への声掛けは今後も継続して行う必要がある。
		○月80時間以上の時間外勤務従事者5%以下	27.3%	C	○ICT化は進んでいるが、日常的に40人の生活ノート点検、添削、教材研究、部活動指導、家庭との連絡、そして授業時数の多さがある。定期テスト、校外活動、学校行事が入るとさらに業務が増える。個への対応も増えており、業務の精選やさらなる業務改善が早急に必要である。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ク	「魅力ある学校づくり」を進め、中高一貫の特色を生かした信頼される教育体制の充実に努める。	○「シラバスから授業の年間計画が分かる」 80%以上	全校 89.8% 1年 87.4% 2年 84.5% 3年 97.5%	A	○初期指導を実施し、生徒に予習、授業、復習のサイクルの確立を促した。 ○年度途中でも状況に応じて柔軟な変更をお願いし、授業改善や次年度のシラバス作りに役立った。 ○高校での学習を見据えた授業内容の展開、中等部からの継続的指導ができた。 ○今後も継続し、個別対応を協議していく。 ○1、2年生での進路指導を充実させる。年度当初等、進路資料の活用を意識する。
		○初期指導でシラバスを活用し、年1回見直を行っている。	見直しを実施した。	A	
		○中高教員の乗り入れ8人以上	13人が実施。 理科、社会、英語、 保体、音楽、家庭	A	
		○生徒支援委員会年6回以上	計画通り実施。	A	
		○「3年間または6年間を通した進路指導計画について知っている」 80%以上	全校 69.3% 1年 63.5% 2年 63.2% 3年 81.0%	B	
ケ	コンプライアンスを遵守するとともに、情報の発信を積極的に行い、生徒・保護者・地域の人々から信頼される学校経営に努める。	○「学校の教育活動に信頼感を抱いている」保護 90%以上	全校 95.2% 1年 96.8% 2年 94.5% 3年 94.4%	A	○目標値を達成することができた。 ○昨年度よりも下がっている原因を分析する。 ○分掌、部活への積極的な記事作成を呼びかける。 ○コロナ禍のため、学年に制限を設けたが、その中で多くの方に参加していただき、生徒の生の姿を見ていただくことができた。
		○ホームページ年間更新 100件以上、アクセス数 50,000件以上	ホームページ年間更新 115件 アクセス 87,000件	A	
		○学校説明会参加者 1,100人以上、 ○オープンスクール来場者 1,000人以上	学校説明会参加申し込み児童 499人(5,6年)。保護者同行。 オープンスクール参加申し込み児童 409人(6年のみ)。保護者同行。	A	
コ	教育目標を達成するため、各目標具現化の柱の遂行に係る適切な財務執行を図る。	○節電等経費削減の周知を徹底し、光熱水費使用量を前年度より削減	電気使用量約1割削減。	A	○節電対策の具体的実施内容について、教職員間で提案、検討、情報共有するとともに、生徒にも理解と協力を図り、電気使用量の削減ができた。 ○根拠法令に基づいた適正な事務処理を行った。注意があった事項は情報共有し、再発防止に努めた。
		○監査、検査等での指摘事項0件	指摘事項0件	A	

(2) 令和5年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	知的好奇心・探究心を大切に、幅広い知識・思考力・表現力等、未来に生きる確かな学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に基づく効果的な授業と指導の充実に努める。 ○「何が分かるか」「何ができるようになるか」が明確な授業を行う。 ○単元構成や課題提示の工夫、導入の工夫などを通して、生徒の知的好奇心や探究心を掻き立てるような授業を行う。 ○計画的に学習指導を行い、家庭学習を質・量ともに充実させるとともに予習→授業→復習の学習サイクルを確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業の内容がよく分かっている」「授業は学力を伸ばすことに十分役立っている」各90%以上 ○「興味や関心を喚起される授業が行われている」90%以上 ○「予習→授業→復習の学習サイクルが確立できている」数・英各70%以上 ○「家庭学習時間が120分以上」70%以上 「60分未満」0%
		<ul style="list-style-type: none"> ○図書委員会による広報、「西高図書百選」を活用し、読書への意欲を高め、年間10冊以上の読書量をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間10冊以上の読む生徒の割合90%以上
イ	地域社会・国際社会のリーダーとして必要なコミュニケーション能力・高い倫理観等の資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○アウトプットで終わる単元構成や意図的な交流活動を積極的に設ける。 ○ICTを積極的に活用するとともに、主体的な学びと対話を重視した学びを充実させ、生徒の意欲とコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の意見を相手にはっきり伝えることができる」80%以上 ○「相手の意見をしっかり受け止めることができる」80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○授業、特別活動、部活動等において、生徒一人一人が役割を持ち、責任を持って取り組むことで、行動力、主体性、自律心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分から進んで行動できる」80%以上 ○「学校生活に満足している」80%以上
ウ	生命に対する畏敬の念や異なる人々を受け入れる優しさを育てるとともに、防災や安全に関する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○行事等の後には振り返りを記述、掲示することで、互いの思いを共有できるようにさせる。 ○毎週の道徳の授業を大切に、タイムリーな題材で、心を豊かにする教育を行う。 ○思春期セミナー、薬学講座等を実施する。 ○人間関係プログラムづくりを活用する。 ○いじめの未然防止に努める。 ○スクールカウンセラーとの密接な情報交換を行う。 ○中高合同でエピペン講習会・救急法を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「相手の立場や意見を尊重している」90%以上 ○「自他の生命の大切さについて、主体的に考えている」80%以上 ○思春期セミナー、薬学講座、人間関係づくりプログラムを各1回実施 ○いじめに関する研修を2回実施する。 ○いじめアンケートを3回実施する。 ○月1回生徒指導報告会を実施する。 ○エピペン講習会・救急法を1回する。
		<ul style="list-style-type: none"> ○大規模地震に対応する能力を育てるための防災教育の充実に図り、防災マニュアルポケット版を常時携帯させる。 ○大規模災害発生後の残留生徒・避難住民への対応の諸課題を整理し体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災マニュアルポケット版の携帯率100% ○「地震等の災害時の対応（行動）について理解している」90%以上 ○防災に関する職員研修を実施
		<ul style="list-style-type: none"> ○バスマナーなどの登下校における交通マナーについての指導を年間10回以上実施し、マナーの向上を図り、安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通マナーに関する苦情0件、交通事故0件

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
エ	自分の幸福を追求するだけでなく、社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲をもつ生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア体験活動への参加を推奨する。また、職場見学・体験、研修旅行等を通して社会と自己との関わりに関心を持たせ、奉仕の精神を涵養する。 ○チャレンジリストの実施や体験学習・リーダー育成講座等への参加を促し、情報等を提供したり、「西山台チャレンジサポート事業」の活用を推奨したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校行事以外でボランティア活動をした」70%以上 ○「困っている人がいれば手助けをすることができる」90%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を通して課題解決や探究活動への主体的・創造的な態度を育て、自己の在り方・生き方への考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間が問題解決能力を高めたり、進路探究に役立ったりしている」80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○浜松西高等学校中等部生としての誇りを持ち、爽やかな挨拶、正しい服装、時間厳守等の基本的な生活習慣の定着とマナーの向上を図る。 ○昇降口でのあいさつ指導を行う。 ○学年集会等の実施により、マナー、服装等の指導を共通理解の下に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「校則等の決まりを守って生活している」90%以上 ○「規則正しい生活をしている」90%以上
オ	目標の実現に粘り強く取り組むたくましい心と体を育成するとともに、生徒の主体的な取組を通して自主・自律の精神を育み、生徒が主役の明るく規律ある学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動や学校行事等の活動に主体的に取り組む態度を育成し、何事にも全力で最後まで粘り強く取り組むように指導を行う。 ○生活ノートから家庭での学習状況を把握し、十分でない生徒へは随時個別面談を実施し、指導、助言を行うとともに、保護者と連携し、生徒の取り組みを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「目標を達成するまで粘り強く取り組むことができる」80%以上 ○「学習でわからないことは調べたり聞いたりして解決している」80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○清掃に一生懸命取り組むように指導するとともに、主体的に取り組む姿勢を育てる。また、生活環境を整える習慣を確立させる。 ○特別清掃日を設定し、環境整備活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「校内美化（清掃等）に前向きに取り組んでいる」90%以上
カ	系統的・組織的な進路指導を通して、一人一人の夢と志を可能とする進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「進路資料」（進路指導計画）で進路意識向上を図る一方、土曜講座、大学見学や「進路講演会」等で夢や志を育てる。 ○基礎学力の向上や学習意欲、教養を高める土曜講座を行ったり、夏季課外を実施したりして、授業と家庭学習を基軸とした学力育成の取組を的確に支援する。 ○模擬試験の結果分析を基に対策を講じ、事前・事後指導を充実させる。 ○「職場見学」や「宿泊訓練」等を通して、物事に主体的・創造的に取り組む態度を育てる。また、自己の在り方や生き方について考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会等年間2回以上の実施 ○県学力診断調査で8割以上の得点が取れる生徒80%以上 ○「進路に関する情報や指導を十分受けている」70%以上 ○「3年間または6年間を通じた進路指導計画について知っている」80%以上 ○「自分の将来に対してははっきりした夢や希望を持っている」70%以上

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
		○進路情報を適切に生徒や保護者に伝える。	
キ	生徒を鍛え、生徒の自己実現を支援することができる、高い指導力をもつプロの教師集団を目指す。また、組織を支える教職員一人一人のワークライフ・バランスの保持・向上に努める。	○公開授業・授業見学を通して授業力の向上及び中高の授業交流の推進を図る。また、授業リサーチを通し授業改善を推進する。 ○教科指導力向上のため、外部の研修会（オンライン含む）に積極的に参加する。 ○ICT 活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を実施する。 ○観点別学習状況評価について研究する。 ○家庭・地域との連携を密にする。 ○昼休みや休み時間でも、教室や学年廊下での様子を観察しながら、適切な声掛けをする。	○公開授業と年2回以上の授業見学100% ○授業リサーチ実施 ○計画的・意図的な研修会の実施、外部の研修会に自主的に10人以上参加 ○ICT を活用した授業の実践および共有が促進される。 ○教科主任会での情報共有や情報交換が行われる。 ○「学校に信頼できる教師がいる」80%以上
		○定時退勤日（基本は水曜日）の実施を奨励する。 ○こまめに声掛けを行い、月80時間以上の時間外勤務従事者を減らす。	○管理職からの声掛け100% ○月80時間以上の時間外勤務従事者5%以下
ク	「魅力ある学校づくり」を進め、中高一貫の特色を生かした信頼される教育体制の充実に努める。	○指導、進路指導、「総合的な学習の時間」の6年間シラバスに基づく指導の充実に努めるとともに、初期指導でシラバスを活用し、年1回見直しを図り改善する。 ○授業、部活動における中等部教員と高校教員の兼務・人事交流を活性化させ、一貫教育を推進する。 ○中高合同で生徒支援委員会を行う。	○「シラバスから授業の年間計画が分かる」80%以上 ○初期指導でシラバスを活用し、年1回見直しを行っている。 ○中高教員の乗り入れ8人以上 ○生徒支援委員会 年6回以上
		○6年間を通じた進路指導を行う。 ○高3生が中3生を指導する先輩チュートリアル、高3担任による中3生徒の面接指導を実施する。	○「3年間または6年間を通じた進路指導計画について知っている」80%以上
ケ	コンプライアンスを遵守するとともに、情報の発信を積極的に行い、生徒・保護者・地域の人々から信頼される学校経営に努める。	○教育活動の見直しと改善を図るために、学校運営協議会において意見聴取を行い、その結果を公開する。	○「学校の教育活動に信頼感を抱いている」保護者90%以上
		○教育活動の紹介と情報提供のために、コンプライアンスの遵守に配慮したホームページの内容の充実と迅速な更新を行う。 ○学校説明会やオープンスクールの内容・日程改善を図り、広報活動の充実に努める。	○ホームページ年間更新100件以上、アクセス数50,000件以上 ○学校説明会参加者1,100人以上、オープンスクール来場者1,000人以上
コ	教育目標を達成するため、各目標具現化の柱の遂行に係る適切な財務執行を図る。	○電気使用量等、経費削減の徹底と学校経営予算の計画的、効率的な執行を行う。 ○法令、コンプライアンスを遵守した適正な事務処理を行う。	○節電等経費削減の周知を徹底し、光熱水費使用量を令和3年度より削減 ○監査、検査等での指摘事項0件

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	<p>1 GIGA スクール構想の本格実施 ICT を効果的に活用した指導について、授業のみならず教育活動全般で実践を重ねながら研究する。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 授業の相互乗り入れ (2) 部活動の一貫指導や接続指導と働き方改革の推進 (3) 高校に繋がる総合的な学習の時間</p>	<p>1 chrome book を教育活動全般で活用した。アンケート類や朝の短学活での連絡は、Google classroom を使い、集計にかかる手間等大幅に省くことができた。生徒会役員や行事の実行委員も活用を行った。 Google classroom やロイロノートの授業での活用方法について、教員間で情報交換を行い、授業改善に繋げた。また、コロナ関係の欠席者の学習支援も実施した。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 中→高 3人、高→中 9人 (昨年比+1人) (2) ・高校教員による練習指導や引率 ・中3の2学期以降の円滑な高校部活動体験入部 (3) ゼミ学習で探究的活動を実施</p>
令和5年度	<p>1 教職員の業務改善 ICT の活用と業務の精選、タイムマネジメントの推奨をし、課題の発見、改善に繋げる。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 授業の相互乗り入れ (2) 部活動の一貫指導や接続指導と働き方改革の推進 (3) 高校に繋がる総合的な学習の時間</p>	<p>1 自動採点システムを試行し、業務の軽減状況の把握と課題の洗い出しをした。業務の精選は継続中であり、来年度の教育課程編成に向けて検討している。 タイムマネジメントの呼びかけ、及び出勤簿の表示を見ることで意識の改善は見られている。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 中→高 4人、高→中 8人 (昨年比△1人) (2) ・高校教員による練習指導や引率 ・中3の2学期以降の円滑な高校部活動体験入部 (3) ・ゼミ学習で探究活動を実施 ・外部の専門家を招いての授業</p>

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

区分	本 務 職 員										臨時・会計年度任用職員				合 計	
	教 育 職 員					行 政 職 員					教 諭	非 常 勤 講 師	サポ-ト・スタッフ	ス クー ル・ 会 計 年 度 任 用 職 員 計		臨 時・ 会 計 年 度 任 用 職 員 計
	校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	事 務 長	主 任	主 事	小 計	本 務 計						
退職者			1		1					1	1		1	2	3	
転出者	1		4		5	1		1	2	7					7	
昇任者															0	
転入者	1		5		6	1		1	2	8					8	
新任者													1	1	1	
昇任者															0	
差引増減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△1	0	0	△1	△1	

(2) 現員数

(単位：人)

区分	本 務 職 員										臨時・会計年度任用職員				合 計	
	教 育 職 員					行 政 職 員					教 諭	非 常 勤 講 師	サポ-ト・スタッフ	ス クー ル・ 会 計 年 度 任 用 職 員 計		臨 時・ 会 計 年 度 任 用 職 員 計
	校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	事 務 長	主 事	小 計	本 務 計							
男	(1)		17		17(1)	(1)		(1)	17(2)					0	17(2)	
女		1	4	1	6		1	1	7		3	1		4	11	
計	(1)	1	21	1	23(1)	(1)	1	1(1)	24(2)	0	3	1		4	28(2)	

() : 兼務外数

(3) 健康管理について

教職員健康診断の完全受診を図り、要精密検査者の再受診を徹底し、全教職員の健康管理に留意した。

また、職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の指導のもと、教職員が健康で安全かつ快適な執務ができるよう衛生管理者等による職場巡視を行うとともに、職員の意見や要望を聴取し、良好な職場環境の確保に努めている。

さらに、授業に支障のない範囲内で積極的に年次有給休暇等を活用するよう教職員を啓発し健康増進、ストレス解消等のリフレッシュに努めている。

(4) 教職員の研修について

ア 授業改善・授業力向上

(7) 令和4年度

a 目的

観点別学習状況の評価の充実

b 内容

観点別学習状況を指導要録に記載することを見据えて、観点別学習状況の評価（3観点）を更に充実させその質を高めた。観点別学習状況の評価を生徒の学習改善、教員の授業改善へと繋げていく。

全ての教員が、各自の授業改善を目指して、他の教員の授業見学を目的意識をもって行うことにより、授業者の積極的な挑戦を促した。

(4) 令和5年度

a 目的

将来を見据えたアクティブラーニングの充実と課題の共有

b 内容

観点「思考・判断・表現」が重視されていることを踏まえて、日常の授業で心掛ける点を意識し、思考・表現活動の質を高める。またそれらの活動をとおして、生徒の学習改善、教員の授業改善へ繋げていく。

特に、各教科における観点「思考・判断・表現」の要点を再確認し、学習活動を充実させる。また授業リサーチを実施し、授業改善に役立てる。

イ 校内研修会等

(7) 令和4年度

a 校内研修

(a) 目的

教職員の資質能力と生徒指導力の向上を図る。

(b) 内容

授業参観率100%（中高で年2回以上）を目指して取り組んだ。3観点评価については校内研修を通して共通理解を図るとともに、評価方法や課題の共通理解を図った。

また、ICTを効果的に活用するために、教員間でICTの活用事例の紹介をし、意識と技能の向上を図った。

その他、救命救急法、学校防災、人間関係づくり研修（人権教育）、生徒理解研修等を実施し、意識向上を図った。

(4) 令和5年度

a 校内研修

(a) 目的

教職員の資質能力と生徒指導力の向上を図る。

(b) 内容

コンプライアンス、救命救急法、エピペン、学校防災、人権教育、生徒理解等の研修を実施し、専門的知識や技術、そして新しい情報を見聞きすることで、危機への対応力や多様な生徒個々への対応力を磨く。

中高の授業を参観し、生徒の発達段階に応じた指導を学ぶ。また、教科部会で情報交換も行い系統的な指導に役立てる。

6 防災対策について（令和4年度・令和5年度）

(1) 危機管理

緊急事態を未然に防止するよう生徒指導に努めている。万一の緊急事態に備え危機管理マニュアル改訂版を作成し、全職員に「危機管理の心得、緊急時の対処方法と職員の役割」を周知徹底し、生徒の防災マニュアルポケット版携帯について点検を行っている。

(2) 防火対策

学校火災を未然に防ぐことに努めているが、火災の発生の際には、生徒の生命・身体の安全とともに、建築物等教育財産の被害の軽減を図るための防火対策等を立てている。火災報知機、電気設備等の点検を行い、機能の維持に努めている。

(3) 地震対策

本校における大規模地震発生時のマニュアルを改訂し、生徒及び保護者への周知を図った。また、災害時に情報を保護者に敏速に伝達するため、災害時一斉メール配信システムを導入し円滑に運用している。

さらに、地震発生時の防災訓練及び南海トラフ地震臨時情報の覚知訓練を行い、生徒の避難・集合訓練を実施した。5月の訓練では、全校生徒で地区ごとに分かれ教室残留時の食料等備蓄の確認を行った。また、避難経路の図上訓練として、登下校時、通学途上や部活動で使用する校外活動場所で活動中に大地震が発生した場合を想定して、通学路の危険箇所についての情報共有、地元の避難所の場所の確認などを行った。

・令和4年度：令和4年5月18日（水）、令和4年8月29日（月）に実施

・令和5年度：令和5年5月18日（木）、令和5年10月25日（水）に実施

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条、第5条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第46条、第47条、第48条、第49条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立中学校学則 中学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 いじめ防止対策推進法
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 義務教育国庫負担法（第2条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 静岡県情報公開条例 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条）

□□□□□□

学校施設の概要

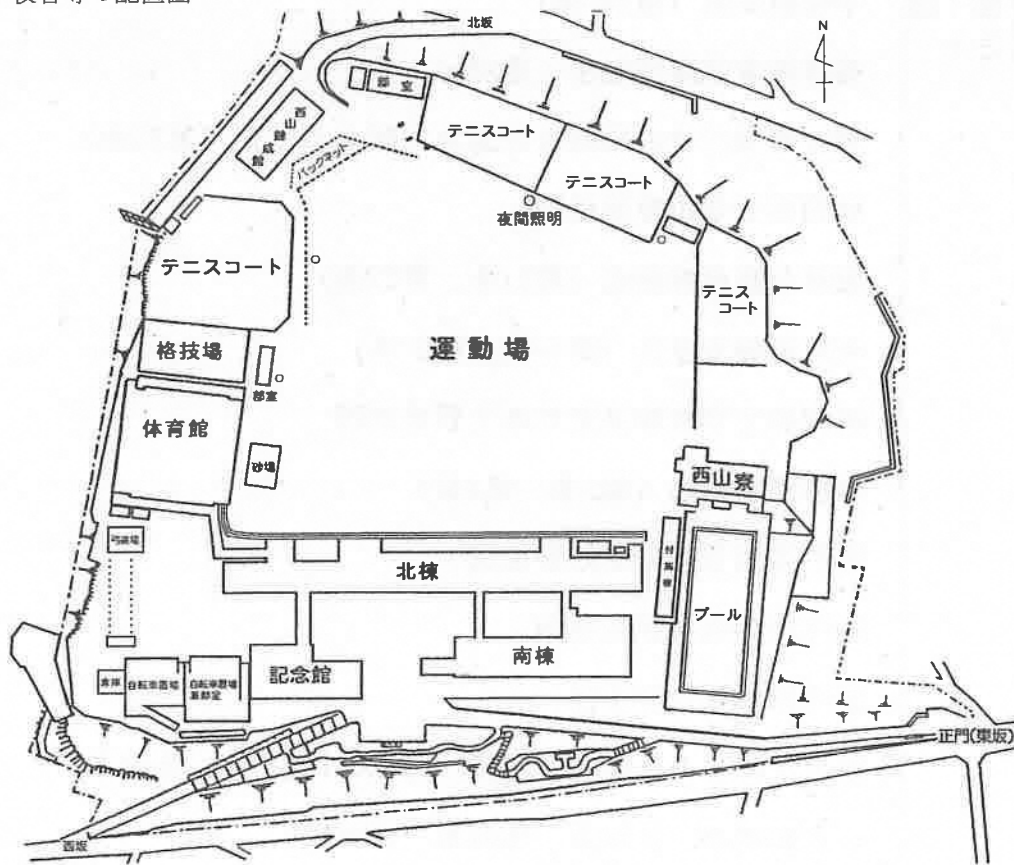
1 面積及び所有区分

(令和5年8月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	54,396.98	54,003.31				393.67	
内 訳	校 舎 敷 地	13,233.57	13,233.57				
	運 動 場 敷 地	23,898.27	23,898.27				
	そ の 他 の 敷 地	17,265.14	16,871.47			393.67	
校 舎	建 3,204.80	建 3,204.80					
	延 9,546.83	延 9,546.83					
体 育 館	建 1,367.08	建 1,367.08					
	延 1,709.46	延 1,709.46					
武 道 場	建 607.63	建 607.63					
	延 508.33	延 508.33					
そ の 他 の 建 物	建 2,058.81	建 1,807.41			建 251.40		
	延 2,869.22	延 2,617.82			延 251.40		
生 活 館	建 282.85	建 282.85					
	延 821.49	延 821.49					
プ ー ル	800.00	800.00					16.0×50m
職 員 住 宅	-	-					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	37,131.84 m ²	9,546.83 m ²	23,898.27 m ²
県平均	45,604.83 m ²	9,733.60 m ²	22,480.60 m ²

□□□□□□□□

在籍生徒調

(令和5年8月31日現在)

学年	学科別 区分		普通科			
			定員	男子	女子	計
1年	入学者		140	70	70	140
		増加				
		減少				
	現在			70	70	140
2年	入学者		160	64	96	160
		増加			1	1
		減少			1	1
	2年時当初			64	96	160
		増加				
		減少				
	現在			64	96	160
3年	入学者		160	69	91	160
		増加				
		減少			1	1
	2年時当初			69	90	159
		増加				
		減少		1		1
	3年時当初			68	90	158
		増加				
		減少			1	1
現在			68	89	157	
合 計				202	255	457

□□□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生徒定員(A)		160	160	160	160	140
募集者数(B)		160	160	160	160	140
志願者数	男	203	186	191	155	209
	女	189	203	205	195	169
	計(C)	392	389	396	350	378
受検者数	男	202	185	190	154	208
	女	189	203	205	195	169
	計(D)	391	388	395	349	377
合格者数	男	72	64	69	63	69
	女	88	96	91	97	71
	計(E)	160	160	160	160	140
志願倍率(C)/(B)		2.45	2.43	2.48	2.19	2.70
受検倍率(D)/(B)		2.44	2.43	2.47	2.18	2.69
入学者数	男	72	64	69	64	70
	女	88	96	91	96	70
	計(F)	160	160	160	160	140
充足率(F)/(A)		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

□□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和5年8月31日現在) (単位:人)

市町名	浜松市	磐田市	湖西市	袋井市	掛川市	その他	合計
生徒数	384	30	23	13	2	5	457
構成比%	84.0%	6.6%	5.0%	2.9%	0.4%	1.1%	100%

(2) 通学方法 (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	バス	遠鉄電車	JR	合計
生徒数	66	224	81	86	457
構成比%	14.4%	49.0%	17.8%	18.8%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		12	4		16
男子	1年	55	14	1	70
	2年	39	19	6	64
	3年	53	14	1	68
	計(A)	147	47	8	202
	構成比	72.8%	23.3%	3.9%	100%
女子	1年	23	43	4	70
	2年	40	53	3	96
	3年	49	35	5	89
	計(B)	112	131	12	255
	構成比	43.9%	51.4%	4.7%	100%
合計	(A+B)	259	178	20	457
	構成比	56.7%	38.9%	4.4%	100%

□□□□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和4年度	令和5年度（令和5年8月31日現在）
	件 数	件 数
入学検定料	378	0

□□□□□□

預 金 調

(令和5年8月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行成子支店	無利息型普通預金	0367667	静岡県立浜松西高等学校中等部 資金前渡者 持山 育央	0	給与法定外控除分の入出金
静岡銀行成子支店	無利息型普通預金	0369469	(自振口) 静岡県立浜松西高等学校中等部 資金前渡者 持山 育央	0	後納郵便料金等 自動引落とし口座
残 高 合 計				0	

□□□□□□

歳 入 歳 出 外 現 金 調

(令和4年度)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
所得税	円 14,945	円 69,343	円 64,593	円 19,695	
縣市町村民税	900	10,900	11,000	800	
計	15,845	80,243	75,593	20,495	

□□□□□□

歳 入 歳 出 外 現 金 調

(令和5年度)
(令和5年8月31日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
所得税	円 19,695	円 27,853	円 38,804	円 8,744	
縣市町村民税	800	5,600	5,300	1,100	
計	20,495	33,453	44,104	9,844	

□□□□□□□□

歳出予算執行状況調

(令和4年度)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘要
	円	円	円	
款 11 教育費	13,289,676	13,289,676	0	
項 02 教育委員会費	66,196	66,196	0	
目 03 教育管理費	66,196	66,196	0	
10 需用費	66,196	66,196	0	
02 食糧費	66,196	66,196	0	
項 04 中学校費	4,196,358	4,196,358	0	
目 01 教職員費	4,196,358	4,196,358	0	
01 報酬	2,078,340	2,078,340	0	
03 非常勤職員報酬	2,078,340	2,078,340	0	
04 共済費	475,550	475,550	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	475,550	475,550	0	
08 旅費	1,642,468	1,642,468	0	
01 その他の旅費	62,132	62,132	0	
02 普通旅費	1,580,336	1,580,336	0	
項 05 高等学校費	7,999,119	7,999,119	0	
目 01 高等学校総務費	0	0	0	
08 旅費	0	0	0	
02 普通旅費	0	0	0	
目 02 高等学校管理費	7,999,119	7,999,119	0	
07 報償費	45,000	45,000	0	
01 その他の報償費	45,000	45,000	0	
08 旅費	300	300	0	
01 その他の旅費	300	300	0	
10 需用費	7,065,198	7,065,198	0	
01 その他の需用費	7,065,198	7,065,198	0	
02 食糧費	0	0	0	
11 役務費	803,947	803,947	0	
12 委託料	13,674	13,674	0	

□□□□□□□

(令和 4年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
13 使用料及び賃借料	71,000	71,000	0	
17 備品購入費	0	0	0	
項 08 学校教育費	1,028,003	1,028,003	0	
目 01 高校教育費	36,000	36,000	0	
07 報償費	36,000	36,000	0	
01 その他の報償費	36,000	36,000	0	
目 02 義務教育費	675,567	675,567	0	
01 報酬	665,000	665,000	0	
03 非常勤職員報酬	665,000	665,000	0	
03 職員手当等	0	0	0	
01 その他の職員手当等	0	0	0	
04 共済費	0	0	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	0	0	0	
08 旅費	10,567	10,567	0	
01 その他の旅費	10,567	10,567	0	
目 04 健康体育費	316,436	316,436	0	
10 需用費	70,036	70,036	0	
01 その他の需用費	70,036	70,036	0	
11 役務費	246,400	246,400	0	
計	13,289,676	13,289,676	0	

□□□□□□□

歳出予算執行状況調

(令和 5年度)

(令和 5年 8月31日現在)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘要
	円	円	円	
款 11 教育費	11,978,680	2,549,948	9,428,732	
項 02 教育委員会費	70,000	17,051	52,949	
目 03 教育管理費	70,000	17,051	52,949	
10 需用費	70,000	17,051	52,949	
02 食糧費	70,000	17,051	52,949	
項 04 中学校費	3,487,000	788,540	2,698,460	
目 01 教職員費	3,487,000	788,540	2,698,460	
01 報酬	2,115,000	648,600	1,466,400	
03 非常勤職員報酬	2,115,000	648,600	1,466,400	
04 共済費	9,000	0	9,000	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	9,000	0	9,000	
08 旅費	1,363,000	139,940	1,223,060	
01 その他の旅費	63,000	20,681	42,319	
02 普通旅費	1,300,000	119,259	1,180,741	
項 05 高等学校費	6,839,000	1,421,401	5,417,599	
目 02 高等学校管理費	6,839,000	1,421,401	5,417,599	
07 報償費	180,000	107,040	72,960	
01 その他の報償費	180,000	107,040	72,960	
08 旅費	8,000	300	7,700	
01 その他の旅費	8,000	300	7,700	
10 需用費	5,249,000	1,006,651	4,242,349	
01 その他の需用費	5,245,000	1,005,031	4,239,969	
02 食糧費	4,000	1,620	2,380	
11 役務費	782,000	237,553	544,447	
12 委託料	20,000	14,537	5,463	
13 使用料及び賃借料	120,000	55,320	64,680	
17 備品購入費	480,000	0	480,000	
項 08 学校教育費	1,582,680	322,956	1,259,724	

□□□□□□□

(令和 5年度)
(令和 5年 8月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
目 01 高校教育費	42,000	0	42,000	
07 報償費	42,000	0	42,000	
01 その他の報償費	42,000	0	42,000	
目 02 義務教育費	912,000	102,236	809,764	
01 報酬	666,000	101,000	565,000	
03 非常勤職員報酬	666,000	101,000	565,000	
03 職員手当等	198,000	0	198,000	
01 その他の職員手当等	198,000	0	198,000	
04 共済費	3,000	0	3,000	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	3,000	0	3,000	
08 旅費	45,000	1,236	43,764	
01 その他の旅費	45,000	1,236	43,764	
目 04 健康体育費	628,680	220,720	407,960	
10 需用費	410,260	2,700	407,560	
01 その他の需用費	410,260	2,700	407,560	
11 役務費	218,420	218,020	400	
計	11,978,680	2,549,948	9,428,732	

□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					3年度	4年度	左のうち、 3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費		13,674	
計					13,255	13,674	0
(14) 工事請負費						0	
計					0	0	0
(16) 公的財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費		0	
計					115,940	0	0
(18) 負担金、補助 及び交付金						0	
計					0	0	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年8月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、4年 度からの繰 越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費	14,537	0
計					14,537	0
(14) 工事請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び 交付金					0	0
計					0	0
(21) 補償、補填及び 賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□

委託料に関する調

(令和4年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 浜北文化センター 駐車場案内・ 整理業務	公益社団法人 浜松市シルバー 人材センター	円 13,674	円 13,674	円 0	円 13,674	随契	4.8.6 ～ 4.8.6	4.9.6	円 13,674	中等部学校 説明会の際 の駐車場の 案内・整理 業務	随契 1号 (少額)
	事務関係	1件	13,674	13,674	0	13,674				13,674		
	合計		13,674	13,674	0	13,674				13,674		

□□□□□□

委託料に関する調

(令和5年度)

(令和5年8月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 浜北文化センター 駐車場案内・ 整理業務	公益社団法人 浜松市シルバー 人材センター	円 14,537	円 14,537	円 0	円 14,537	随契	5.8.5 ～ 5.8.5	5.8.31	円 14,537	中等部学校 説明会の際 の駐車場の 案内・整理 業務	随契 1号 (少額)
	事務関係	1件	14,537	14,537	0	14,537				14,537		
	計		14,537	14,537	0	14,537				14,537		

□□□□□□□□

備品・図書調

(令和4年度)

区分	令和4年 3月31日 現在	増		減		令和5年 3月31日 現在
		数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
01-02 台類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
01-04 収納保管庫類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-05 印刷機器類	1	(0) 0	0	(0) 1	0	0
01-07 書類整理器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-13 厨房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	494	(0) 48	0	(0) 3	0	539
02-02 情報伝達機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
03-03 視覚用再生等機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-02 金属加工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-09 木工用機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
10-03 社会用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-07 音楽用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-12 体育保健用器具類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
10-99 その他の教育用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	536	(0) 48	0	(0) 4	0	580

□□□□□□□

備品・図書調

(令和5年度)
(令和5年度8月31日現在)

区分	令和5年 3月31日 現在	増		減		令和5年 8月31日 現在
		数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
01-02 台類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
01-04 収納保管庫類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-07 書類整理器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-13 厨房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	539	(41) 41	0	(0) 0	0	580
02-02 情報伝達機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
03-03 視覚用再生等機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-02 金属加工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-09 木工用機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
10-03 社会用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-07 音楽用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-12 体育保健用器具類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
10-99 その他の教育用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	580	(41) 41	0	(0) 0	0	621

□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和5年8月31日現在)

整理 番号	区分		品 名・規 格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	冷蔵(凍)庫	牛乳保冷库 FUKUSIMA EMW-024RM-N	牛乳保管用 毎日	平成14年3月	円 724,500
2	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	パソコン教室用機器 ノートパソコン 外	パソコン授業用 年230日	平成27年3月	623,700
3	06-09	木工用機械	丸のこ盤 トップマンTM-350	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	498,750
4	06-09	木工用機械	角のみ盤 トップマンHC-16-MD	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	362,250
5	06-09	木工用機械	角のみ盤 トップマンHC-16-MD	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	362,250
6	01-04	戸棚	工具戸棚 教文35-5823 AF-1	技術科教材 保管用 常設	平成14年3月	261,450
7	10-12	バレー用器具	バレーボール支柱 ミスノ9SV-400	体育授業用 年30日	平成14年7月	258,300
8	06-09	木工用機械	集じん機 ムラコシ HM-2000	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	236,250
9	02-01	電算組織用媒体	パソコンソフト デジタル教科書 新しい社会	社会科授業用 年230日	平成28年4月	216,000
10	06-02	金属加工工作機器	ベルトグラインダ 淀川 FS20N	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	212,100

職 員 調

(令和5年8月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
	校 長	持 山 育 央		□□□	□□□□	□□□□
1	教 頭	杉浦 有美子		□□□	□□□□	□□□□
	事務長	袴 田 祐 之		□□□	□□□□	□□□□
2	教 諭	神谷 亜由美	外国語	□□□	□□□□	□□□□
3	教 諭	前川 葉子	数 学	□□□	□□□□	□□□□
4	教 諭	山下 美帆	音 楽	□□□	□□□□	□□□□
5	教 諭	加藤 忠伸	外国語	□□□	□□□□	□□□□
6	教 諭	梶原 功次	数 学	□□□	□□□□	□□□□
7	教 諭	高 柳 司	数 学	□□□	□□□□	□□□□
8	教 諭	辻村 篤史	社 会	□□□	□□□□	□□□□
9	教 諭	前嶋 慎也	社 会	□□□	□□□□	□□□□
10	教 諭	齋藤 祐輝	国 語	□□□	□□□□	□□□□
11	教 諭	木村 一輝	理 科	□□□	□□□□	□□□□
12	教 諭	渡 邊 諒	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
13	教 諭	山 下 悟	外国語	□□□	□□□□	□□□□
14	教 諭	渡仲 祥太	数 学	□□□	□□□□	□□□□
15	教 諭	橋本 洋佑	外国語	□□□	□□□□	□□□□
16	教 諭	鈴木 智也	外国語	□□□	□□□□	□□□□
17	教 諭	深澤 大輔	数 学	□□□	□□□□	□□□□
18	教 諭	内山 朝史	国 語	□□□	□□□□	□□□□
19	教 諭	砺波 雄介	理 科	□□□	□□□□	□□□□
20	教 諭	杉浦 由貴	国 語	□□□	□□□□	□□□□
21	教 諭	佐藤 真哉	技 術	□□□	□□□□	□□□□
22	教 諭	赤津 耀祐	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
23	養護教諭	浅野 慶子		□□□	□□□□	□□□□
24	主 事	沼野 更紗		□□□	□□□□	□□□□
平均年数					1年11月	

職 員 調

(令和 5年8月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
	教 諭	今 井 悟	英 語	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	菅 龍之介	芸術(音楽)	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	上 西 智紀	理 科	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	後 藤 昌英	理 科	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	渥 美 文宏	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	平 野 聡	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	江 間 利弥	社 会	□□□	□□□□	□□□□
	教 諭	小 澤 智子	家 庭	□□□	□□□□	□□□□
	主 幹	林 真由美	庶務会計	□□□	□□□□	□□□□
	主 査	山下 真粧美	会計庶務	□□□	□□□□	□□□□
	主 任	中 村 肇孝	管財会計	□□□	□□□□	□□□□
	主 事	山 口 明子	庶務会計	□□□	□□□□	□□□□
1	非常勤講師	坂口 芙美代	芸術(美術)	□□□	□□□□	□□□□
2	非常勤講師	古 田 道代	家 庭	□□□	□□□□	□□□□
3	非常勤講師	佐 藤 知佳	芸術(美術)	□□□	□□□□	□□□□
4	非常勤嘱託員	三善 富樹子	事 務	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	山 口 学	内 科	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	兼 子 周一	眼 科	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	伊 藤 光成	耳 鼻 科	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	山 本 俊幸	歯 科	□□□	□□□□	□□□□
	学校薬剤師	沖 田 佳子	薬 剤 師	□□□	□□□□	□□□□

□□□□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和5年8月31日 現在)

年 齢	人 員	備 考
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	4	
30歳以上40歳未満	10	
40歳以上50歳未満	6	
50歳以上56歳未満	4	
56歳以上61歳未満	0	
61歳以上	0	
計	24	平均年齢 38 歳 0 月

健 康 管 理

1 令和4年度受診状況

区 分	内 容	(1) 未受診の理由
受 診 状 況	受診者数 24人 <hr style="width: 50%; margin: 5px auto;"/> 職員数 24人	
受 診 率	100.0%	
県平均受診率	100.0%	

2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ正常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務で良い。	要 治 療	2 人 (2)
D 2		要経過観察	3 人 (2)
D 3		医 療 不 要	19 人 (12)
区 分 者 計			24 人 (16)
未 区 分 者 数			0 人
合 計			24 人 (16)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

- ア 産休・育休 0人
- イ 新規採用 0人
- ウ 自己都合による未受診 0人
- エ その他 0人